



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC)
分科会へのご案内 (会員による自主講座)

第4回

ジョコンダ・デ・ヴィート (1907-1994) 全3回

その2 古典派音楽

〈略歴〉

1907年北イタリアのブドー園主の娘として生まれ、幼少期よりヴァイオリン弾きの天才ぶりを発揮、数々の賞を獲得し、14歳でパリ音楽院を卒業するが、内気の為、教職に就く等、演奏活動は余り行わなかった。

1942年35歳、満を持してローマでデビュー、一躍「イタリアヴァイオリン界の女王」として、また「遅咲きの名花」として楽壇の寵児となった。

デ・ヴィートの録音は主として、夫となるビッグネルとの縁で、1948年(41歳)から英EMIで始められたが、1962年(55歳)絶頂期に突然引退してしまった。その為、録音はそれ程多くはない。

次回最終回はロマン派音楽を採りあげる予定です。

演奏予定

- モーツァルト : ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K.216 (ST録音)
カデンツァ: プリンサイプ?
ラファエル・クーベリック指揮 ロンドン交響楽団
- ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 op.30-2 (MONO)
(ピアノ) ティート・アブレーア
- ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61 (MONO)
EMI全集にも収録されていない幻の名演。
1950年代イタリアにおけるライブ。
カデンツァは? (少なくともクライスラーやヨアヒムではない)

詳しくは分科会にてご説明します。



往年の女流
名ヴァイオリニストによる
演奏を聴く

日時 / 11月10日(日) 13:30~15:30

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

講演者 / 霜鳥 晃 シリーズ全13回(予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>